

「日本における『リチャード三世』を考える」（第7回駒澤大学シェイクスピア・フォーラム、平成8年1月）

佐々木隆、広川治、石原孝哉。シンポジウム「日本における『リチャード三世』」の司会兼発題者として、日本の『リチャード三世』における研究史と上演史について取り上げ、歴史劇と悲劇の特徴についても論じた。また、歴史劇の中でもリチャード三世が移植名ことは、リチャード三世自身の個性が非常にはっきりしており、人間味が前面に出る作品であることを述べた。具体的な例として、実際の上演氏から劇評などを手掛かりに、『リチャード三世』の本質に迫った。特徴をはっきりさせる為に、『マクベス』との比較を行なった。